

放射線照射が奏効したと思われる持続勃起症

慈恵医大青戸病院泌尿器科 (主任: 町田豊平)

細部 高英, 小野寺昭一, 仲田浄治郎

飯塚 典男, 中内 憲二, 小針 俊彦

A CASE OF PRIAPISM SUCCESSFULLY MANAGED BY LOCAL IRRADIATION

Takahide Hosobe, Shyouichi Onodera, Joujirou Nakada,

Norio Iizuka, Kenji Nakauchi and Toshihiko Kobari

From the Department of Urology, the Jikei University School of Medicine

A 42-year-old man with priapism is reported. The condition did not improve by cavernous body irrigation with heparin, intravenous administration of anticoagulant, or various surgical shunt operations. However, the condition improved after local radiation therapy: a total dose of 6Gy, 1.5 Gy daily for 4 days, was given to a site 24 cm×24 cm which covered the small pelvic cavity and the femoral area centering around the root of the penis. Improvement of the condition became evident from Day 3 of radiation therapy. For about 1 year since then the patient has been entirely free of recurrence.

(Acta Urol. Jpn. 37: 1735-1737, 1991)

Key word: Priapism, Irradiation

緒 言

持続勃起症の治療は現在でも一般に難渋するものがあるが、われわれは、各種薬剤治療や陰茎海绵体一尿道海绵体吻合術、陰茎海绵体一大伏在静脈吻合術など外科的シャント形成術を施行するも改善のみられなかった特発性持続勃起症に、局所の放射線治療により奏効した1例を経験した。

症 例

患者: 42歳, 男性

初診: 1989年9月12日

家族歴: 特記すべきことなし

既往歴: 胃潰瘍にて1963年手術療法施行。高血圧にて1979年よりアダラート内服中。飲酒は、1日ビール1本程度。

現病歴: 来院2日前の起床時より有痛性持続勃起があり消退しないため来院。持続勃起症の診断のもとに緊急入院となった。

入院時現症: 身長 170 cm, 体重 54.5kg, 血圧 160/90 mmHg, 体温 37.7°C, 胸腹部に理学的異常を認めずまた、神経学的検査にも異常を認めなかった。

局所所見として陰茎は完全な勃起状態で、陰茎海绵体が特に硬く自発痛、圧痛著明であった。精巣、精巣上体、前立腺に所見はなく、排尿は可能であった。

検査所見・血液生化学的検査には異常を認めず、また尿所見にも異常を認めなかった。

治療経過: 1989年9月12日緊急入院し、直ちに局所麻酔下、左右陰茎海绵体の末梢と中枢にそれぞれ18Gと16Gの留置針を置きヘパリン加生食にて鮮血となるまで洗浄したところ、洗浄後約1時間後には、若干の軟化を認めた。また、同時にヘパリン3,000単位、ウロキナーゼ30,000単位の全身投与も施行した。

入院2日目の朝、ふたたび高度勃起状態のためあらためて局所麻酔下、TRUCUT針にて亀頭部より長軸方向に両側陰茎海绵体に至る穿刺を行い亀頭部の尿道海绵体と陰茎海绵体の隔壁白膜を切除し内瘻シャントの形成を試みた。さらに、プロスタグランジンF40μgを点滴静注したが、これも一時的な軟化がえられたのみであった。

入院3日目、勃起状態が続くため、硬膜外麻酔下、左陰茎海绵体一尿道海绵体吻合術を施行した。術後には軽度の硬度低下と疼痛の軽減を認め、経過を見ることにした。

入院5日目、再度勃起状態となった。

硬膜外麻酔下、右陰茎海绵体一大伏在静脈吻合術を施行した。術中海綿体造影では、右大伏在静脈へのシャントが良好であることを確認した (Fig. 1)。

しかし、若干の疼痛軽減、硬度低下が見られるも、なお疼痛は続き、勃起状態も改善しないため入院7日目より陰茎根部を中心に小骨盤腔から大腿部の24×24cmの部位に1日1.5Gyを4日間、total 6Gyの放射線局所照射を施行した。

放射線照射3日後から硬度は徐々に低下し、疼痛もほとんど軽快した。

放射線照射、1カ月後の海绵体造影で側副血行は形成されており、造影剤の外腸骨静脈への流入が確認された (Fig. 2)。

1989年10月14日入院1カ月目に退院し、現在外来通院中で再発は認めていない。

また、術後のインポテンスは一年後の現在なお続いている。

考 察

持続勃起症は、本邦では、1930年山本の報告以来、200例以上の報告がある。

原因としては、1970年土屋¹⁾らは、159例を集計し、特発性22%、外傷性13.8%と報告しているが、最近10年間の46症例についてみると、インポテンスの治療目的で塩酸パペリン注射後に発症したものが、33.9%と最も多く²⁾、近年は、特発性症例の報告は少なくなっている。

治療については、従来より保存的治療法や観血的治療法について多くの報告がみられるが、その適応や、選択に関しては、まだ十分確立されているものはない。

保存的治療には、抗凝固剤の全身投与³⁾や、プロスタグランティンFの全身投与⁴⁾、カテコールアミンの海绵体注入⁵⁾、麻酔剤の全身投与⁶⁾等の報告があるが、単独で使用されるよりむしろ観血的治療と併用した方が優れているとする報告が多い。

一方、観血的治療としては、陰茎海绵体に貯留した血液を機械的にドレナージし、静脈系にバイパスを作成するもの⁷⁾がおもに行われている。しかし必ずその効果が期待できるほど確実なものではない。そのため抗凝固剤の全身投与、陰茎海绵体の洗浄⁷⁾などと併用されている。

持続勃起症に対する放射線照射については、山本⁸⁾が本邦で初めて報告しているが、治療法としては稀に慢性白血病や悪性腫瘍により生じた症例に行われ

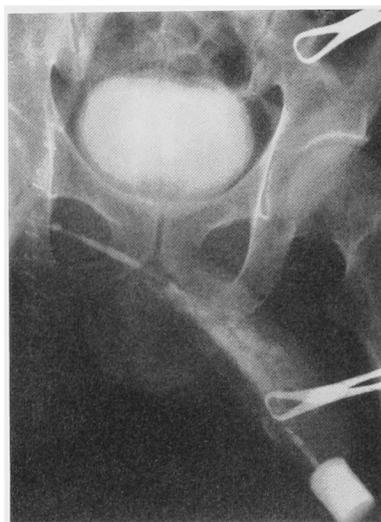


Fig. 1. It was confirmed that the shunt to the right hypogastric vein was good in the cavernosography during the surgery of right cavernosaphenous anastomosis.



Fig. 2. The formation of collateral blood vessels was confirmed in the cavernosography one month after irradiation.

ている。

また1967年 Ulrich⁹⁾は慢性白血病により生じた症例12例、特発性症例11例に対して、6Gyの放射線局所照射を行い、良成績をえたとしている。

今回われわれは、各種治療法により軽快せず、患者

の疼痛が強いためやむをえず試みとして放射線局所照射を行い, 照射3日後から著明に勃起の消退と疼痛の軽快をみた。

ただ, その効果が放射線単独のものとは必ずしも断言できないが, 放射線分割照射は照射部位の血管拡張をもたらすことが知られており, この効果があるいは, 持続勃起症に作用したかもしれない。

難治性の持続勃起症に対する治療法が確立されていない現状において, 患者の苦痛を早く除くための治療法として, 放射線照射があることを頭にとめておくこともよいと思われる。

文 献

- 1) 土屋文雄, 豊田 泰, 中川完二, ほか: 続発性陰茎癌による持続勃起症の3例. 日泌尿会誌 **61**: 687-716, 1970
- 2) 内田豊昭, 小俣二也, 小柴 健: 塩酸パパベリン局注後, 持続勃起状態を呈したインポテンスの1例. 臨泌 **40**: 161-163, 1986
- 3) 塩沢寛明, 辻野 進, 小柴健一郎, ほか: 透析患者に見られた持続勃起症. 臨泌 **10**: 933-935, 1988
- 4) 内田豊昭: 塩酸パパベリン局注後の持続勃起症に対して PGF 点滴静注の著効した1例. IMPTENCE **1**: 40-43, 1986
- 5) 水谷雅巴, 松原昭郎, 相模浩二, ほか: カテコールアミンの海綿体注入による陰茎持続勃起症の治療経験 外傷性持続勃起症の2例. 西日泌尿 **48**: 1955-1958, 1986
- 6) 中野 忍, 熊沢光生, 新谷周三, ほか: TUR 時, 硬膜外麻酔により持続勃起をきたした2症例. 山梨医大誌 **3**: 71-73, 1988
- 7) 高村慎一, 鈴木靖夫, 日江井鉄彦, ほか: DIC による Priapism の1例. 泌尿紀要 **33**: 453-457, 1987
- 8) 仲山 實, 柴山太郎, 早川正道, ほか: 特発性持続勃起症に対する経亀頭穿刺による陰茎海面体吸引洗浄. 西日泌尿 **47**: 1715-1718, 1985
- 9) Von Ulrich H: Röntgenbestrahlung bei nichteukämischem Priapismus. Med Klin **62**: 1388-1390, 1967

(Received on February 4, 1991)
(Accepted on April 18, 1991)